

農薬豆知識

雑草のお話 《水田雑草について》

今回は水田雑草についてのQ&Aです。

Q:水田に発生する雑草は？

A:北海道の水田でよく見られる雑草のうち、一年草は ノビエ、ミズアオイ、アゼナ、ミゾハコベなど、多年草では エゾノサヤヌカグサ、イヌホタルイ、オモダカ、ヘラオモダカ、ウリカワ、シズイ、コウキヤガラなどがあります。

Q:それぞれの雑草の別称や特徴は？

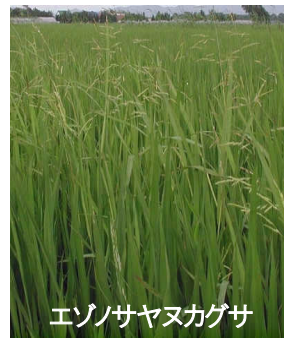
A:ノビエとはイネ科雑草の総称で、一番多いのがタイヌビエです。その他、毛がある「ケイヌビエ」などもあります。

雑草名によく付いている「イヌ」とは動物の犬ではなく、「役に立たない」と言う意味で、否(イナ)の音が変わったとの説があります。また、地域によっては俗称があり、イヌホタルイは「トオシミ」、「鹿の角」などと呼ばれます。

ミズアオイは大発生した時に非常に綺麗な花畑になることから、「おいらん」と呼ぶ地区もあるそうです。

エゾノサヤヌカグサはおかしな草で、イネ科のくせに広葉剤が効きます(バサグラン、ウエスに入っているベンゾビシクロン、ウリホスに入っているベンフレセート)。畑にも生えるスズメノテッポウも同様で、イネ科剤は効きませんのでご注意ください。

アゼナは日本在来種よりも、北アメリカ原産の帰化植物である「アメリカアゼナ」の方が多くなってきています。そこから辺に生えているタンポポのほとんどが西洋タンポポであるのと似ていますね。



エゾノサヤヌカグサ



アメリカアゼナ

Q:特に困っている雑草は？

A:ミズアオイやイヌホタルイは、かつて大量に残草する圃場がありました。これは主流で使用されていたスルホニルウレア系除草剤(略してSU剤と言う)に抵抗性が付いてしまったためで、空知管内では平成5年くらいから確認され初め、現在では全道の広い範囲に分布しています。SU抵抗性雑草は、非SU系除草剤のウリホスやウエスで除草可能のため、最近では大量に残草する事例が少なくなってきましたが、近年はオモダカの発生量が目立ってきています。オモダカの塊茎は深い位置からでも発芽するため、発生のピークが6月中以降なのも除草剤の効果が出にくい要因です。シズイやコウキヤガラは発生する地区は限られますが、自信を持って「効果がある」と言える除草剤が無く、対処法は今後の課題となっています。



ミズアオイ



オモダカ



シズイ

Q:一発処理除草剤とは何ですか？

A:過去には除草剤を体系で使用していた時期がありましたが、除草剤の進化によって、一発でひと通りの雑草に効果を出すことが可能になりました。有効成分の基本構成は、ヒエ剤+広葉剤+カヤツリ剤(ホタルイに効く剤)の3成分で構成されます。近年のヒエ剤はヒエ2、5葉まで効くだけでなく、広葉にも効果があり、イネへの安全性も高いものが出てきています。

Q:今後の雑草、除草剤の動向について

A:時代と共に除草剤が変わり、そして優占する雑草も変わって来た歴史があります。過去にはマツバイ、ヒルムシロなどの雑草がどこにでもありましたが、現在はミズアオイ、オモダカ、ホタルイなどが問題雑草となっています。最近は減農薬志向のため3成分剤が主流になっていますが、数年後には2成分剤も出てくるかもしれません。しかし、全ての雑草に効果が高い除草剤というのはありませんので、雑草に合わせた除草剤の選択が必要です。



ホクサンとしては、北海道で問題になっている雑草にポイントを絞って、効果が高い除草剤を開発していくつもりです。また、雑草に合わせて適切な除草剤を選択できるよう、情報についても出来るだけわかりやすく伝えたいと思っています。

(2008年5月 そあら一記)